

編集後記

自宅近くの通りや公園でも桜の花が咲き始め、私たちは変わらない春の気配を感じています。一方同じ地球上では・・悲しいことにロシアによるウクライナ侵攻が現実のものになってしまいました。ある日突然攻め込まれて、こどもやお年寄りも含め多くの市民が命を落とし、生活が困難な状況になってしまっています。テレビやSNSで流れてくる映像や報道に接するたびに心が痛みます。この平和な時代に信じられない光景の連続。暴力では何も解決しないのに・・。今は新型コロナウイルスや温暖化による自然の驚異に立ち向かわなくてはいけない時代です。早く戦争やコロナが終結し平和な日常が戻ってくことを切に願います。

「誌上ギャラリー」は大山 眞先生より「山桜の頃」です。美しい桜の花と小鳥に癒されます。私たちにとっても希望の春となってほしいものです。

「論説と話題」は日本医師会医療情報システム協議会です。これから課題としてマイナンバーカードの活用、サイバーセキュリティ対策、オンライン診療があげられます。時代の流れに合わせた新たな対応が求められています。

「くすり一口メモ」は桐野玲子先生より新型コロナウイルス感染症における薬物治療の最近の話題です。発症から7日間程度はウイルス増殖期、発症後7日前後からは宿主免疫による炎症反応が主病態であると考えられています。この病態に合わせて、発症早期は抗ウイルス薬または中和抗体薬、発症7日前後以降の中等症・重症の病態では抗炎症薬を投与することになっています。重症度等に応じてこれらの薬剤を適切に使用することが重要です。

「学術」は溝田美智代先生より「学校の成長曲線で発見された頭蓋内胚細胞腫瘍の一例」です。2014年に学校保健安全法が一部改正され、成長曲線を積極的に活用することが勧められるようになりました。この症例では学校での成長曲線で精査を勧められたことにより重症成長ホルモン分泌不全

症、中枢性尿崩症および鞍上部腫瘍と診断されています。成長障害は小児に何らかの病的状態が起こっていることのサインであり、成長曲線の作成と評価は疾患の早期発見につながると考えられます。今後も学校健診に携わる学校医や養護教諭、保護者へのさらなる啓蒙が必要です。

「医師会病院だより」はペインクリニック内科です。高齢者が増加していくなかで、痛み少なく元気な高齢者を目標に治療を行っています。ご紹介よろしくお願ひ致します。

「切手が語る医学」には、古庄弘典先生からエケアドルの妊娠・出産への配慮、グリーンランドの結核撲滅肺のイラストです。いつもありがとうございます

「随筆」には栗 博志先生より「フランツ・リストと聖エリザベト - 第1部、フランツ・リスト、その6 - 」をご寄稿いただきました。ご一読ください。武田元彦先生より「私の父 - 明治生れの日本人男性像」をご寄稿いただきました。明治時代にドイツに留学されたお父様のたくましいお姿、帰国後に医師として活躍されたお姿が描かれています。

「リレー随筆」は平田悠哉先生です。奄美大島での充実した研修医ライフが描かれています。NHKのど自慢本選出場ならびに特別賞受賞のエピソード 最高です！

「各種報告」は若年者心疾患・生活習慣病対策協議会です。小児生活習慣病予防検診として腹囲の測定、ALT、HbA1cを追加する等の新たな取り組みについて報告していただきました。

サッカー日本代表が苦しい状況から這い上がってワールドカップ出場を決めました!! 我が町の鹿児島ユナイテッドFCの新しいシーズンも始まりました。こちらは上々の滑り出します。大嶽新監督のもと、J3優勝

J2昇格目指しての戦いです。今年こそはと大いに期待して、この地元のJチームを応援していきましょう！

(編集委員 今村 直人)